

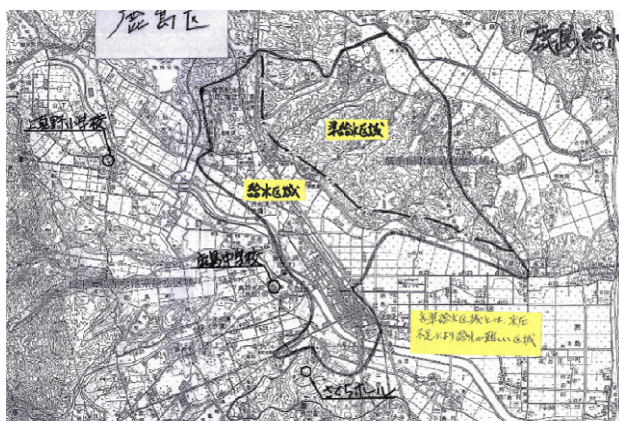
(4) ライフラインの復旧状況

① 上下水道

小高区では、沿岸部は津波被災のため簡易水道施設が流失するとともに、地震の影響により断水となった地域が多くを占めた。また、その後の原発事故で避難指示区域となったため、区内の水道施設（簡易水道含む）の電源を落とし、施設を休止させた。

鹿島区・原町区では、沿岸部は津波被災のため水道施設が流出するとともに、地震による緊急遮断弁の作動により配水を停止し、一時全域で断水となった。

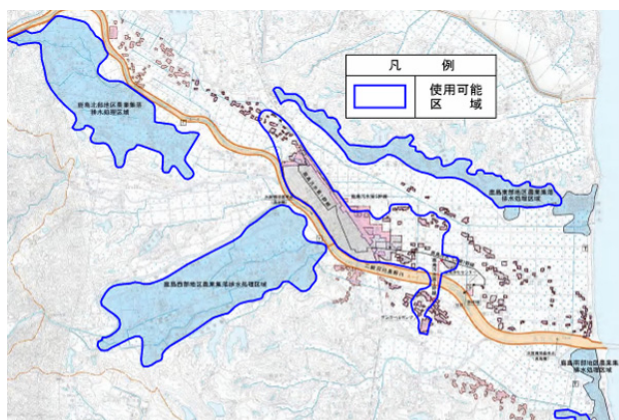
平成 23 年 4 月 25 日時点で鹿島区及び原町区では津波被災地（概ね国道 6 号の東側）以外の給水はほぼ可能な状況にあった。



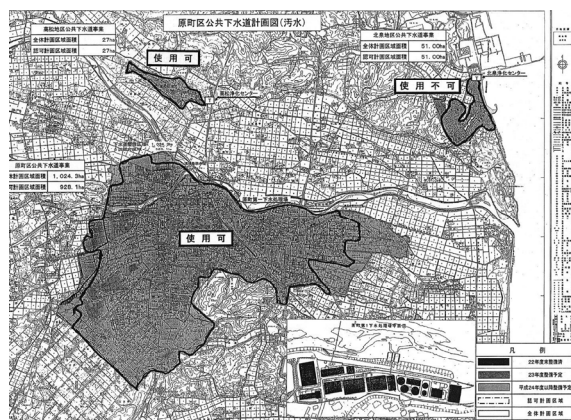
■鹿島区給水可能エリア



■原町区給水可能エリア



■鹿島区下水道状況



■原町区下水道状況

資料：南相馬市ホームページ（平成 23 年 4 月 25 日現在）

② 情報・通信等

地震発生後、携帯電話・固定電話ともにつながらない状況となり、また、一部停電によりテレビなどの情報入手手段も絶たれた。市では、防災無線や広報車を用いて、市民への広報を行い、庁内においては、庁内ネットワークの掲示板において連絡を取り合う状況であった。この掲示板においては、一部使用できない環境にいた職員もいたが、庁内でもネットワークで庁内ネットワークにつながった避難所については、庁内との連絡を取り合うことに活用された。一方、防災無線は地震・津波により機器が被害を受け、地域により聞き取りにくい状況となった。

(5) インフラの状況

① 道路・河川・海岸

市内の道路被害については、幹線国道である6号が地震津波により各区で被災し通行不能となったため、避難、輸送に支障をきたした。また、県道・市道についても津波到達エリア内では壊滅的被害を受け、ほとんどの路線が通行不能となった。一方、地震により内陸部においては、道路法面の崩落、橋梁部との段差等により通行障害が生じた路線が数多くあった。市街地部においては、下水道等の堀山の陥没、下水道マンホールの浮上がり等により、通行不能となった路線があった。

河川については、津波の遡上により一部河川（金沢川、新田川、太田川、宮田川）において破堤した箇所があった。また、地震により堤防が崩壊した河川もあった。

■道路被災状況

	旧警戒区域内				旧警戒区域外				合計			
	地震		津波		地震		津波		地震		津波	
	被災箇所	延長(m)	被災箇所	延長(m)	被災箇所	延長(m)	被災箇所	延長(m)	被災箇所	延長(m)	被災箇所	延長(m)
国道	6	300	5	4,150	2	500	1	1,500	8	800	6	5,650
県道	33	17,512	10	11,054	18	2,243	12	14,332	51	19,755	22	25,386
市道	95	23,399	20	6,143	45	4,515	20	8,125	140	27,914	40	14,268
合計	134	41,211	35	21,347	65	7,258	33	23,975	199	48,469	68	45,304

■河川被災状況

	旧警戒区域内		旧警戒区域外		合計	
	被災箇所	延長(m)	被災箇所	延長(m)	被災箇所	延長(m)
二級河川	38	19,371	26	12,114	64	31,485
準用河川	-	-	2	1,225	2	1,225
合計	38	1,9371	28	13,339	66	32,710

■海岸被災状況

	旧警戒区域内			旧警戒区域外			合計		
	被災箇所	延長(m)	被災延長(m)	被災箇所	延長(m)	被災延長(m)	被災箇所	延長(m)	被災延長(m)
農地海岸	7	5,326	5,325	2	1,074	1,073	9	6,400	6,398
建設海岸	6	5,638	5,638	4	6,441	6,441	10	12,079	12,079
合計	13	10,694	10,963	6	7,515	7,514	19	18,479	18,477

※海岸被災延長は、査定箇所は査定延長、未査定箇所は査定受検予定延長。海岸被災は決壊、破堤、消波ブロック損壊、沈降など多岐にわたる（堤防かさ上げを含む）ため、被災延長は海岸延長と同じ

道路被災状況



河川被災状況



太田川：原町区小浜



北原川：原町区萱浜



井田川：小高区浦尻

②公共交通

南相馬市においては、3月11日の発災直後から市内すべての公共交通が運休状態となった。その後、福島第一原発の状況や政府からの避難指示等を鑑み、市では全市民の市外・県外への集団避難を進めたが、一方で自主避難者が市内に戻り、市内と市域外とを結ぶバス路線が臨時で運行されるようになった。4月に入ると、通院、通学など、生活のためのバス路線が相次いで再開・新設されていった。

JR常磐線は、12月21日に相馬～原ノ町間が再開した。震災以前は東

日付	路線	区分	種別	事業者
3月25日	相馬市法務局前・仙台駅東口	臨時	バス	はらまち旅行
	相馬市役所前・仙台駅前	臨時	バス	福島交通
28日	相馬～（富沢・車川経由）鹿島農協前	臨時	バス	福島交通
	相馬～（立谷・土樋経由）鹿島農協前	臨時	バス	福島交通
	各1日8往復			
4月5日	相馬市役所～南相馬市文化センター	臨時	バス	福島交通
	1日2往復（平日のみ）			
	タクシー3社、運転代行1社が営業再開	再開		
13日	しあわせ号（病院送迎バス）		バス	鹿島厚生病院
15日	原町・仙台線（1往復/日）	新設	バス	はらまち旅行
18日	相馬・原町線	新設	バス	
22日	市内路線（5系統）	再開	バス	福島交通
22日	鹿島区スクールバス	新設	バス	はらまち旅行
27日	相馬・原町線	再開	バス	福島交通
5月16日	福島～南相馬線（相馬経由）	新設	バス	福島交通
23日	亘理～南相馬線（JR代行）	代行	バス	JR東日本
7月23日	東京～南相馬線 新設	新設	バス	SDトラベル
9月1日	仮設住宅巡回バス（2系統）	新設	バス	鹿島厚生病院
26日	仮設住宅巡回バス（2系統）	新設	バス	はらまち旅行
10月17日	原町区スクールバス	新設	バス	はらまち旅行
11月17日	原町・仙台線（2往復/日）	増便	バス	はらまち旅行
12月15日	福島～南相馬線（川俣経由）	再開	バス	福島交通
21日	JR常磐線（相馬～原ノ町間）	再開	鉄道	JR東日本
23日	原町・仙台線（6往復/日）	新設	バス	はらまち旅行

京からいわき、原ノ町を経て仙台市へと至る太平洋岸の重要路線であったが、新地町以北は津波で大きな被害を受け、また、事故収束作業が進められている福島第一原発近くを通過するため、全線開通には長い年月を要する。

■南相馬市におけるモビリティ確保の状況整理

年月	H23.2	H23.3	H23.4	H23.5	H23.6	H23.7	H23.8	H23.9	H23.10	H23.11	H23.12	H24.1	H24.2	H24.3
区分	震災前	緊急対応期	応急期						復旧期					
集団避難		3/15～10日間												
JR常磐線				5/23～JR代行バス							12/21～相馬⇄原ノ町 再開			
路線バス(広域)				4/15～仙台線(新設)、4/27～相馬線(再開)、5/16～福島線(新設)、7/23～東京線(新設)										
路線バス(市域)				4/22～鹿島区(一部再開)								1/10～原町区(一部再開)		
その他(しあわせ号)				4/13～しあわせ号(鹿島厚生病院)				9/1～仮設住宅巡回バス(鹿島厚生病院)						
その他(スクールバス)				4月～鹿島区学校再開に伴うスクールバス運行				10月～原町区学校再開に伴うスクールバス運行						
その他(仮設巡回バス)									9/26～仮設住宅巡回バス(県補助)					
参考) 居住人口	71,635人	約1万人まで減		27,391人	35,222人	38,377人	40,566人	41,572人	42,748人	43,549人	44,982人	45,401人	45,496人	46,534人

資料：「東日本大震災後の地域モビリティ確保に関する考察」吉田樹 他

(6) 医療・福祉

①病院

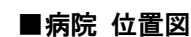
発災後、市内の医療機関は入院と救急以外の診療を休止した。3月14日に一部診療を再開する医療機関もあったが、福島第一原発の水素爆発事故とそれに伴う緊急避難指示を受け、3月19日には通常診療を行う医療機関はなくなった。また、入院患者についても、国が新潟県や栃木県、福島県内の医療機関へ移送を行った。

入院・救急医療以外では、人工透析を必要とする患者の受け入れが問題となったが、小野田病院で対応のほか、近隣市町村で対応可能な医療機関を紹介していた。その他、避難所等での急病人については保健師が対応、薬の処方方は市立総合病院が継続していた。

また、市立総合病院には長野県茅野市の諏訪中央病院から医療支援チームが派遣され、3月20日～26日、4月8日～10日に支援を受けた。鹿島区では、相馬郡医師会による臨時診療所が鹿島厚生病院内で開設され、3月25日から4月8日まで診療を行った。

■医療機関の動き

月日	各病院の動き		
	市立総合病院	その他病院	その他医療機関等
3月13日	・救急で寝たきりの患者36人、小高病院の患者67人受け入れ		
14日	・急患のみ受付	・小野田病院・西病院（浪江町）：人工透析ができない状況となる	・はらまち心療内科クリニック・原町中央産婦人科医院・ときわ整形外科・たなベクリニック：通常診療 ・柿沼皮膚科・小泉クリニック：午前のみ診療 ・西潤マタニティクリニック：出産のみ
15日	・急患のみ受付 ・昼から調理員不在となる		
16日	・入院患者は現状維持、急患のみ受付、外来受付は中止	・小野田病院：人工透析について、1週間程度対応可能となる。入院患者は現状維持、外来受付は中止	・原町中央産婦人科医院：通常診療 ・高野眼科医院：急患のみ ・マルイ眼科：処方箋のみ
18日	・各病院の入院状況：市立総合病院＝136人、小野田病院＝136人、大町病院＝140人、渡辺病院閉鎖		・原町中央産婦人科医院：13:00～15:00診察（翌日から閉鎖）
19日	・緊急避難計画に基づき、国が病院入院患者を移送開始 ・入院患者移送終了		
20日	・諏訪中央病院の第一次医療チームの支援開始（26日まで）	・大町病院から66人をサテライト鹿島へ移送 ・小野田病院の140人移送終了	
21日		・サテライト鹿島へ移った大町病院の入院患者66人県立医大へ移送	
22日			・原町中央産婦人科：診療再開
25日			・相馬郡医師会による臨時診療所開設（鹿島厚生病院内） ・マルイ眼科：診療再開
27日	・外来処方箋発行のみ対応		
31日	・原町一小での訪問診療実施		
4月1日	・鹿島区内での巡回診療実施		
4日	・外来の一時診療開始		・市：医療チームによる在宅・避難所の訪問巡回診療開始 ・自衛隊：医務官配置により、在宅・避難所の巡回診察開始
5日	・内科・外科の外来診療開始		
8日			・相馬郡医師会による臨時診療終了



②福祉施設・デイサービス等

【介護老人保健施設 ヨッシーランド】

原町区の介護老人保健施設であるヨッシーランドは、地震発生当時、入所者やデイサービスの利用者が約 140 人、職員は 60 人ほどいたが、津波に襲われ、36 人が死亡、1 人が行方不明となった。

津波襲来時には、施設に 40～50 人の利用者が残っていたとみられ、施設の職員が近くのふりど循環器科医院に助けを求めに行っていると同時に、消防署員が救助にあたり、テクノアカデミー浜へ避難することとなった。

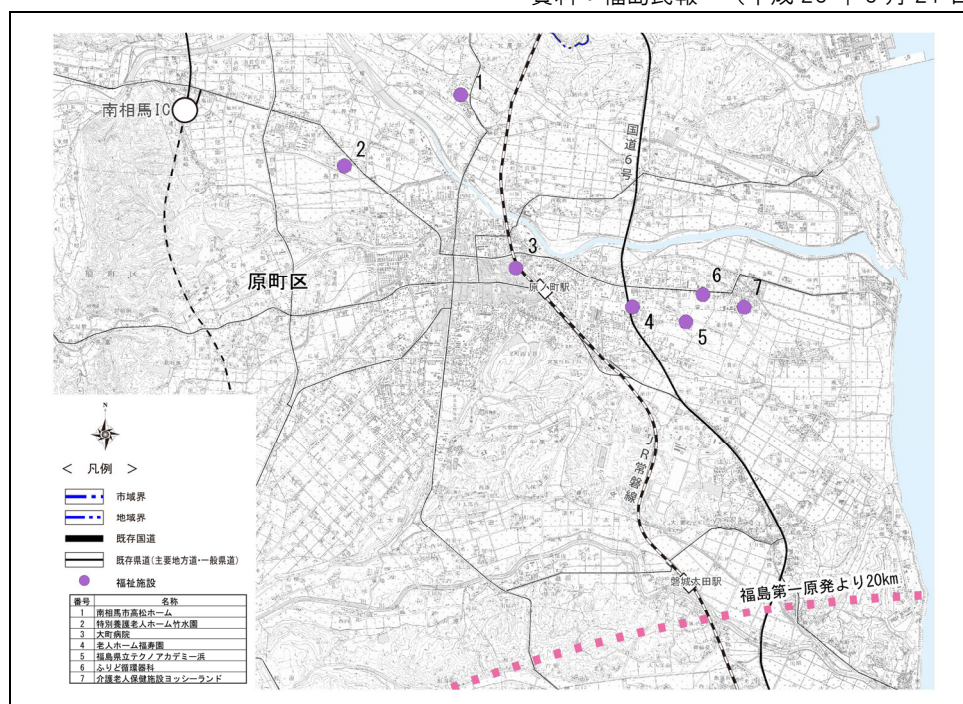
震災直後の夜は、拠点を大町病院に移し、家族が迎えに来た利用者は帰宅し、家族と連絡の取れない利用者約 50 人は、数か所の別の施設へ移動することとなった。

【その他の施設】

その他の社会福祉施設は、福島第一原発事故による避難指示や原子力災害区域設定に伴い、以下のように対応、避難が行われた。

施設名称	対応	移転先
市立養護老人南相馬高松ホーム	屋内退避	—
ホームズくにみの郷	屋内退避	—
介護老人保健施設長生院	—	—
グループホームゆうゆうの里	移動	新潟県三条市の避難施設
原町共生授産園	—	—
原町学園アフターケアセンター	移動	のびっこらんど相馬（相馬市）
グループホーム原町事業所	—	—
なごみの里	移動	針生ヶ丘病院（郡山市）
特別養護老人ホーム福寿園	—	—
特別養護老人ホーム万葉園	移動	老人介護保健施設「老健リハビリよこはま」（神奈川県横浜市）
特別養護老人ホーム梅の香	—	—
特別養護老人ホーム竹水園	移動	福島市、伊達市、二本松市の 8 施設に分散

資料：福島民報（平成 23 年 3 月 21 日、27 日）



■原町区の主な福祉施設等 位置図